

JACET-Kansai Newsletter

No. 22 2004 年 2 月 14 日発行

支部長：岡田 伸夫

JACET-Kansai 事務局：〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学政策科学部 梅咲敦子研究室
Tel/Fax:075-466-3064 E-mail: ufatsuko@hcn.zaq.ne.jp URL: <http://www.ryukoku.seikyoku.ne.jp/home/87858/>
振込口座： 00940-4-187715 大学英語教育学会関西支部

JACET は変わる！

支部長 岡田 伸夫

大げさなタイトルですが、将来構想委員会における審議の内容を踏まえると、それほど実態から離れたタイトルではないように思われます。

昨年 of 理事会と評議員会で、将来構想委員会が会長に提言した支部費の新しい算定方式が承認されました。2004 年度から支部費は、今までの（基礎額 21 万円＋900 円×会員数）ではなく、（基礎額 18 万円＋1,300 円×会員数）を使って算定されることになります。

関西支部は、以前から、①JACET 本部の活動を見直し、JACET の全予算の中で支部費が占める割合を再検討する、②全国の支部の間に見られる支部会員 1 人当たりの会費還元率の凸凹をできるだけならす、という 2 つの主張をしてきましたが、2 番目の支部会員 1 人当たりの会費還元率の問題については若干の前進が見られたと言っています。

2002 年度将来構想委員会は、支部費について検討した結果、「JACET 本部が現在行っている活動は維持する。無駄な出費はおさえなければならないが、JACET 本部の活動費を削って、浮いた分を各支部の活動費に回すことはしない。」という結論に達しました。どの組織も社会に一定の影響力を及ぼすためには一定の大きさを保っていなければなりません。JACET は、日本の英語教育のあり方に積極的にかかわる運動団体としての性格をもっています。そのような学会が本部の活動を縮小することはプラスにはならないでしょう。いわゆるサイズメリットを重視したということです。

しかし、富士山型がいいのか、ハケ岳型がいいのか、その中間がいいのかに関しては、今後も引き続き、検討を続けることになるでしょう。

関西支部が主張しているもう 1 つのことは関東・甲信越支部の設立です。本部というのは全国に 6 つある支部を統括する上位の機構なのですが、関東・甲信越地区にいる会員がすべて本部所属になるという仕組みは支部から見ると腑に落ちない点があります。また、本部の活動は JACET の全会員のものですから、関東・甲信越地区の 1,150 名（全会員の 42%）にのぼる会員はどの支部のサービスを楽しみたいのでしょうか。関東・甲信越地区の会員に対するサービスをするための予算措置は必要ないのでしょうか。本部の月例研究会が、実質的には関東・甲信越地区の会員に対する唯一のサービスなのではないでしょうか。

関東・甲信越地区の若い会員の間では、支部費がないので支部紀要が出せない、支部大会を開いて発表する機会もないということに疑問を感じ、(関東・甲信越支部をつくる、つくらないという議論はさておき) 関東・甲信越地区の会員に対するサービスを考えるべきであるという趣旨の意見も聞かれるようになったと聞いています。

将来構想委員会は、全国の支部と関東・甲信越地区の両者に関東・甲信越支部の設立に対する一定の理解と支持が生まれてきている事実を踏まえ、2004 年度から関東・甲信越「地区」に若干の予算を配分することを決議し、会長に提言しました。この提言は 2004 年度から実施に移されます。

ところで、関東・甲信越地区に予算を配分するということは組織論としてはどういうことを意味するのでしょうか。関東・甲信越「支部」を設立する方向へ一歩足を踏み出したということにほかなりません。JACET の成立・発展の過程を考慮すると、関東・甲信越支部の設立というのは大事件かもしれませんが、私にはそれは JACET の成熟の証しであり、時代の変化にまじめに立ち向かおうとする JACET の決意の現れであると思われます。将来構想委員会は関東・甲信越支部の 2006 年度設立を提言することを検討中です。

また、将来構想委員会は会長の選出方法について検討してきましたが、目下、全会員による会長の直接選挙の実施を会長に提言する方向で検討中です。

本稿のタイトルが誇大広告でないことはご理解いただけたのではないのでしょうか。

2003 年度第 3 回談話会開催のお知らせ

今年度の第 3 回談話会を下記の要領で開催いたします。奮ってご参加ください。

記

日時：2004 年 3 月 6 日(土) 午後 1 時 30 分から 3 時

場所：キャンパスプラザ京都 第 1 会議室(2F)

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

TEL. (075) 353-9111 <http://www.consortium.or.jp/campusplaza/>

講師：阿部 一 氏(獨協大学教授)

演題：コミュニケーションを踏まえた単語・文法指導の考え方とその実践について

交通アクセス

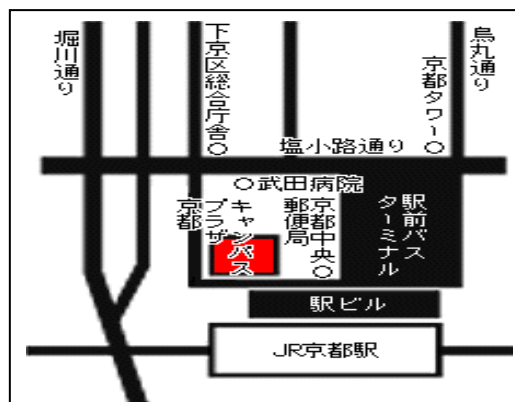
JR 京都駅下車 徒歩約 3 分

京都中央郵便局西隣 (右図参照)

参加費：会員 500 円、

非会員 1,000 円(学生 500 円)

※事前申込不要。直接会場にお越しください。



講演概要

最近、コミュニケーション重視の英語教育の流れの中で、特に「単語」と「文法」の取り扱いが微妙な位置を占めている。うっかりすると、コミュニケーションという名のもとで軽視されがちだし、重要視し過ぎると昔の英語教育に戻るのかと批判される恐れがある。では、コミュニケーションを重視し、かつきちんとした知識の「発展性」が望める単語・文法指導とは、一体あるのだろうか？ここでは、最近の各関連分野の知見を取り入れつつ構築される「単語」や「文法」の考え方とは、どのようなものかを各種の実例を取り上げながら考えてみる。また、それらを実際の授業でどのように生かせばよいかも紹介する。

講師プロフィール

アイオワ州立大学 Ph.D. 1994 年から 2 年間にわたり NHK ラジオ「基礎英語 3」の講師を務める。著書は、『ダイナミック英文法』（研究社）、『英単語の意味とイメージ』（研究社）、『インターネット英和辞典-英語のウェブサイトを活用するための辞書』（研究社）、『英文レターライティング・ハンドブック』（ジャパントイムズ）、編集『アドバンストフェイバリット英和辞典』（東京書籍）など多数。

AILA 2005

JACET 本部から、AILA 2005 世界大会（マディソン、ウィスコンシン）の発表応募案内が参りました。奮ってご応募ください。

AILA 2005 will be held in Madison, Wisconsin, July 24 - 29, 2005. The Call for Proposals, with necessary instructions for submission, is now posted on the web at <http://www.aila2005.org/>. Proposals will be accepted from March 1 through June 1, 2004. Registration information will be available later in 2004.

JACET 関西支部研究会例会のお知らせ（開催予定日順）

「リスニング研究会」3 月例会

日時：3 月 5 日（金）午前 10 時から午後 5 時

場所：大阪成蹊短期大学研究棟・談話室（1 階）

内容：テキスト『パワーアップリスニング』原稿の検討

連絡先：津村修志 E-mail: tsumura@osaka-seikei.ac.jp Fax: 072-672-6977

※参加希望者は事前にご連絡ください。

「英語力指標研究会」3 月例会

日時：3 月 9 日（火）午後 2 時から 5 時 会場：大阪市中央公会堂 第 2 会議室

内容：「小学校英語教育の理論と実践：『小学校英語活動を創る』（松川禮子著）を参考に」

石川保茂（京都外国語大）、「小学校英語活動に対する中・高英語教員の意識に関する調査報告：JASTEC 関西支部プロジェクトチームの研究より」田辺義隆（近畿大）

連絡先：相川真佐夫 E-mail: aikawa@nnc.or.jp

「学習英文法研究会」第8回例会

日時：3月13日（土） 午後2時から5時

場所：キャンパスプラザ京都

発表者：鈴木三千代（大阪女子大-非）・甲斐雅之（京都女子大）

連絡先：神崎高明 E-mail: tkanzaki@kwansei.ac.jp

「海外の外国語教育研究会」3月例会

日時：3月14日（日）午後1時半より

場所：滋賀会館

発表者：「台北市立国民中学における英語教育の変化について：教師へのインタビュー調査より」相川真佐夫（和歌山信愛女子短期大学）

連絡先：Fouser J. Robert E-mail: fouser@maia.eonet.ne.jp, 電話: 075-752-3095

「ESP研究会」平成15年度第5回例会

日時：3月17日（水）午後2時から4時

場所：大阪工業大学 LL 教室（7号館5階）

内容：一部 14:00-15:00 本を読んで議論 *English for Specific Purposes*, Thomas Orr, 2002 TESOL Inc. (Chapter 9: An ESP Program for Entry-Level Manufacturing Workers pp.147-160) Discussion leader: 河野淳子（奈良女子大学大学院）
二部 15:00-16:00 “科学技術英語のシミュレーション授業”（実践報告）深山晶子（大阪工業大学）

連絡先：井村 誠 E-mail: m-imura@ip.oit.ac.jp Fax: 06-6954-4352

「文学教育研究会」平成16年4月例会

日時：4月10日（土）午後2時半から5時半

会場：同志社大学または佛教大学（現時点では未定）

内容：1. 輪読 "Chapter4: Reading literature cross-culturally" (*Literature and Language Teaching*, Gillian Lazar, CUP, 1993, pp. 48-61.) を読む。内藤満（京都産業大学）
2. 講演 古我正和（佛教大学）タイトル未定

連絡先：西田晴美 E-mail: vnishida@f4.dion.ne.jp Fax 06-6443-9475

研究会著書

事務局に連絡のありました研究会の編著書をabc順に掲載します。

JACET バイリンガリズム研究会編『日本のバイリンガル教育－学校の事例から学ぶ』三修社 (2003.12)

JACET リスニング研究会著『総合英語パワーアップ－リスニングからリーディング＜基礎編＞』南雲堂 (2004.1)